

英才新クラス



7月から英才クラスになる

●月4時半 ●木7時

レギュラーとの違いは

- ・毎回のスピードアップトレーニング
- ・クラスの英検目標設定
- ・月一懇談会

*英才クラスは希望者全員参加可能。

選抜はその中から結果に応じて。

希望者はだれでも参加可!

まだ間に合います。

(1) 小学校で平均 2 級 (全クラス英才)

今、フロンティアでは週1で小学校で平均準2級ですがこれを2級合格にしたい。企業英語公用語化が急ピッチで進む中、中学でのオーラル(英会話重点)実施はほとんど聞こえず、高校は新聞報道で2割です。現状では小学校で準2を取っても、中・高で部活や受験で中断すれば会話力の維持向上は難しくなります。小学校で2級を取れば高校上級の知識レベルとなり英語のみならず学校で抜群の成績を収める英才効果と中学で余裕で英会話を続けられる状況になるでしょう。(教室の目標↓)

	年少	年中	年長	1	2	3	4	5	6	中1	中2	中3
英才特別選抜												
英才選抜												
英才標準												
レギュラークラス												
準1												
2												
準2												
3												
4												
5												

英会話力=学力

教室が最初の 10 年間でつかんだものは、小学校低学年までに中学の英語教科書を高速暗唱すると

天才脳と言われる右脳が開けた状態になる

のではないかと、ということです。これは幼少期のレベルの高いバイリンガル教育の効果とも言われるところですが、教室はそれを綿密なデータで裏づけしてきました。さらにそれは言語脳と呼ばれる右脳、ネイティブの原音が獲得できる 10 歳までに

英語の英才教育で学力とともに高める

取組をすることが一番合理的だと思います。これは残念な現実ですが、この 10 年間でも中学のオーラル:英会話重視の授業はほとんど進んでいないということです。さらには新聞報でで明らかなように高校のオーラル実施率は 2 割です。中学、高校に期待するのは難しい現実があります。

(2) 赴任同行クラス

地域からお役に立てるクラス。子供たちが赴任に同行する時期がわかればそれまでに必要レベル以上の英検合格を目指します。ところが現実には、ほとんど半年前にならないとわかりません。どうしても準備不足になってしまいます。

であるなら、たとえ赴任に同行しなくても帰国子女並みに話せるようになるフロンティアの取り組みをおすすめしたいと思います。前のページにありますように中学校でも英会話力は役立たないかもしれませんが、

英才効果で学力アップをめざし

あとは将来就職の際の

企業の英語公用語化に

備えることができます。

右の表は教室の生徒対象のアンケートによるものです。今では赴任前にしっかりやって現地で英検準1や1級に合格して帰国する生徒も増えました。

よくあるケースで急な辞令で半年しかなければ週2、3回で集中学習も可能です。

しっかり準備できます。赴任同行は多くの生徒にとって残念ながら学力低下の一因と言われて久しいものがあります。

英語力と慣れるのに必要な時間 (教室調査)

	1か月	3か月	半年	1年	全然話せないで赴任
年少	5級				
年中	4級	5級			半年
年長	3級	4級	5級		1年
小1		3級	4級	5級	1年半
小2			3級	4級	
小3	準2級			3級	
小4	2級	準2級			2年
小5	準1級	2級	準2級		
小6	1級	準1級	2級	準2級	3年
中1		1級	準1級	2級	
中2			1級	準1級	
中3				1級	

※個人差、赴任先により違いがあります。あくまで参考資料としてご覧ください。

赴任は十分準備できます。現地で成績優秀者として3年間すごすのと、常に遅れてしまっている子供として過ごすことの差はその後一生影響を及ぼします。逆に言えばしっかり準備すれば将来国際的な人材になれる可能性も高くなります。

(3) 私立対応速習クラス

これまで、残念な例が多くありました。小3までに頑張って3級を取って小4から受験体制に入るため3年間英語を休む。その3年間の間に英会話力は限りなくゼロに近くなってしまいます。さらにはネイティブの発音が獲得できる臨界点、そして言語脳(右脳)の活発な時期も10歳までと言われておりせっかく頑張ったのに

ベストタイミングの詰めをする機会を逃してしまう

のです。英検準2と2級を続ければ私立中受験模試でもおそらくかなり良い成績が続くはずで、小6で2級が合格してから本格的に私立受験対策を始めても、東海や南女は間に合います。心配であれば週2のクラスに参加して、短期集中で上位級合格も可能にします。ここでしっかり考えなければいけないのは、中学では一部の私立を除いては

英会話はほとんどゼロと言う現実

です。英語は生涯のスキルとなり誰もが英語が話せる時代には欠かせないものとなります。

(4) プロアクティブ英検

「力がついてきたら英検を受けようかな」ではなくて「〇〇までに△級に合格しよう！」と積極的に取り組む。テストの得点目標%も提示したり、準2級以上は政治、経済、文化科学……という具合に分野別の弱点補強をして

受かりに行く英検。

を目指します。英検は文科省の指導要領に準拠(ぴったりあって)していますから、学校の予習になり、教室の生徒の様に小学校高学年あたりから学校の成績がアップし、進学にもめざましい成果が出ています。



(5) セミナー & 懇談 (生徒の授業中別の部屋で)

フロンティアの生徒でこれまで英語力と学力を2つともゲットした人は

選抜クラスメンバーか英才教育セミナーの受講者

でした。その両方とも入ったカリキュラムとなります。

文科省は89年にオーラル:英会話に重点を置いた授業にかわったはずがほとんど実施されてこなかったため、親も生徒も

英会話の学習をどうやったらよいか

わかりません。セミナーではお家でお手伝いいただくときに役に立つ

暗唱のコツ、発音記号、フォニックス、英語発想の文法

などの英語学習のノウハウ、それから

幼稚(保育)園児さえもスイッチONする

心理学の学習。目からうろこの納得講座です。最初の年は

月2回で2年目からは月1回となります。

月	①毎月第1週は懇談会
1st	②暗唱の仕方
2nd	②やる気にさせるには
3	②伸ばし続けるには
4	②男の子女の子の違い
5	②シナリオを作ろう
6	②量から質を導く学習
7	②受験英語克服法
8	②量から質を導く
9	②スピードアップ
10	②忘れない学習法
11	②瞬間英作文とは?
12	②右脳を開くには



2年目から月一懇談(小4まで)